

学校教育目標	かかわりの力を育てる	目指す子ども像	「元気にあいさつできる人（自立）」「楽しく運動できる人（健康）」「仲良く生活できる人（協力）」
--------	------------	---------	---

【評価】 保護者、教員アンケートによる評価：A：3点 B：2点 C：1点 D：0点 点数の合計で評価（質問項目ごと保護者最大30点、教員最大24点）

達成度：A 達成できた（8割以上） B ほぼ達成できた（6～7割） C あまり達成できなかった（4～5割） D 達成できなかった（3割以下） ○数字：点数

No	項 目		重 点 目 標	具体的方策・（評価指標）等	達 成 状 況	達成度	課題及び改善策
1	楽しい学校	指導・支援の充実	(1)個別の教育支援計画、個別の指導計画に基づき、児童一人一人の課題を明確にししながら、個に応じた授業(指導・支援)の充実を図る。	①関わりの力を育む指導方法の工夫 ②授業計画や実施、個別の支援に係るチーム検討・振り返りの場の確保 ③教材研究で楽しい授業づくり、研究授業の実施で授業改善	①学習集団を変えたり、教員の指導体制を整えたりしながら、「人」や「物」、「場」との関わりを大切にして指導することができた。T－Tの授業における支援についてはさらに工夫が必要である。 ②授業者間で授業の振り返りを行い次時からの授業に生かすことができた。 ③11月には助言者を招へいし、全学級で生単の授業研究会を行うことができたが、研究授業の持ち方には工夫が必要である。日々、教材研究の時間を設け、授業づくりや授業改善に努めた。	B	【指導・支援の充実、専門性の向上】 ①T-T 授業の事前の打ち合わせで個別目標を共有化し、役割分担を明確にする等、支援のあり方について共通理解を図る。 ③研究授業の持ち方について、どのような形が深まるか検討していく。 ④専門性を高めるため計画的に外部及び内部の研修を行っていく。
			(2)障がいの特性や指導法等について理解を深め、指導・支援の充実及び専門性の向上を図る。	④実態把握や指導法等に係る研修機会の設定 ⑤外部の授業研究会等への積極的参加	④県センター指導主事による実態把握、指導法について研修することができた。障がいの特性やその対応について、さらに研修を重ねる必要がある。 ⑤外部の研修会等に全教員が参加することができ、研修報告会も行うことができた。		
		交流及び共同学習	(1)学校同士が相互に連携を図り、設置形態のメリットを活用し児童の実態に応じた交流を推進する。	①津山小との共用施設等を活用した意図的交流、自然交流の機会設定 ②双方にとって価値ある交流及び共同学習実施に向けた本校・山形校との連携・協力	①津山小の相撲大会や運動会、集会や学年の授業に参加した。体育館ギャラリーでは休み時間の交流もできた。児童の実態を考えると交流のあり方に工夫が必要であった。 ②本校・山形校の児童と「小学部運動会」、「むらとくまつり」で交流を行った。また、「宿泊学習」や「修学旅行」等での学年交流も行うことができた。参加の仕方については、天童校の教師の役割を明確にする必要があった。	B	
			津山小との交流（教5㉒＋保4㉓：㉔）		本校との交流（教16㉓）		
2	安全な学校		(1)安全安心を第一とする教育活動を推進する。	①「ヒヤリハット」の集約と共有（児童の重大事故0） ②保護者との日常的会話の確保 ③津山小と連携した避難訓練や危機管理研修会の実施	①「もしも」、「もしかしたら」という意識を常にもち続け、児童の動きを予想して、安全に学校生活が送れるように指導体制を整えてきた。その結果、重大事故は0件だった。一方、「ヒヤリハット」を集約する方法については、共有化できるように工夫が必要だった。 ②登下校時での保護者との会話、連絡帳でのやり取りを大切にしてきた。また、必要に応じて教育相談を行った。 ③津山小と合同で避難訓練を年4回実施し、緊急時の動きについて共通理解を図ることができた。	B	【安全な学校】 ①「ヒヤリハット」については、その日のうちに終礼で情報を共有し、データに残す。
			保護者と連携（教7㉒＋保7㉓：㉔）		安全安心（教8㉓＋保6㉔：㉕）		
3	頼りになる学校	家庭・地域との連携	(1)家庭・地域との協働体制を確立するとともに信頼される開かれた学校づくりに努める。	①天童校・学級だより、連絡帳等による情報発信（授業参観、行事等への参加、活力あふれる特別支援学校づくり）	①天童校だより、学級だより、連絡帳等を通して、学校生活の様子や取組について伝えてきた。また、学期ごとの授業参観や運動会、給食試食等の行事終了時にアンケートをとり、保護者の声に耳を傾けてきた。地域のひとと花のプランター作りを実施したり、地域の文化祭に児童の作品を展示し、学校紹介ビデオを映したりした。	B	【家庭・地域との連携】 ①地域への天童校に関する情報発信を定期的に行っていく。
			(2)様々な機会をとおして、地域の特別支援学校としての情報発信及びセンター的機能を果たす。	②相談や見学等の依頼への積極的対応 ③外部からの要請依頼に積極的に対応（授業研究会講師、研修会講師）	②学校紹介ビデオを作成し、天童校に関わる情報を積極的に発信し見学者や地域の方々に対応してきた。 ③天童市就学相談（7件）、教育相談（2件）、学校見学（3件）等に対応した。また、特別支援教育に関する天童市教委や関係機関からの依頼（講師・相談）にも応えている。（ <u>延件数</u> ）		
			開かれた学校（教11㉒＋保8㉓：㉔）		センター的機能（教12㉓）		
4	やりがいのある学校	安定した分校経営	(1)津山小との日常的な連携の方法を確立し、分校経営の安定を図る。	①教頭同士、教務同士の確認や依頼など日常的な連携・連絡調整	①毎週、教務主任同士で日程の確認、共用施設の使用調整を実施し、必要な事項については教頭間での調整を適宜行った。 ②会議については、事前に資料を配布し効率化を図った。定時退校日の取組については、11月までの反省を受け、4時45分の退校を実施できた。	B	【協働体制づくり】 ③今年度を振り返り、各分掌部で業務内容の見直しを行い、具体的内容と役割分担を明確にする。 ④誰が何をいつまで提案し、協議していくのかを教務主任や分掌部長から伝えていく。
			(2)ゆとりとやりがいのある職場づくりを推進する。	②会議等の効率化、定時退校日の実施 ③組織が機能する校務分掌役割分担 ④同僚性を高め、チーム天童としての実践	③分掌部の業務内容や分担が明確でないことがあった。 ④一人一人が組織の一員として自分にできることを模索し、学校経営に取り組んだ。しかし、見通しがもてなかったことで、提案が遅くなったり十分な協議ができなかったりした面があった。		
			働きがい（教14㉒＋保9㉓：㉔）		チーム力（教10㉓＋保10㉔：㉕）		